

2019年度 第2四半期 決算説明会

2019年11月26日



- 2019年度 第2四半期決算概況
- 2019年度 通期業績予想
- 1921中期経営計画の進捗状況

2019年度 第2四半期決算のポイント

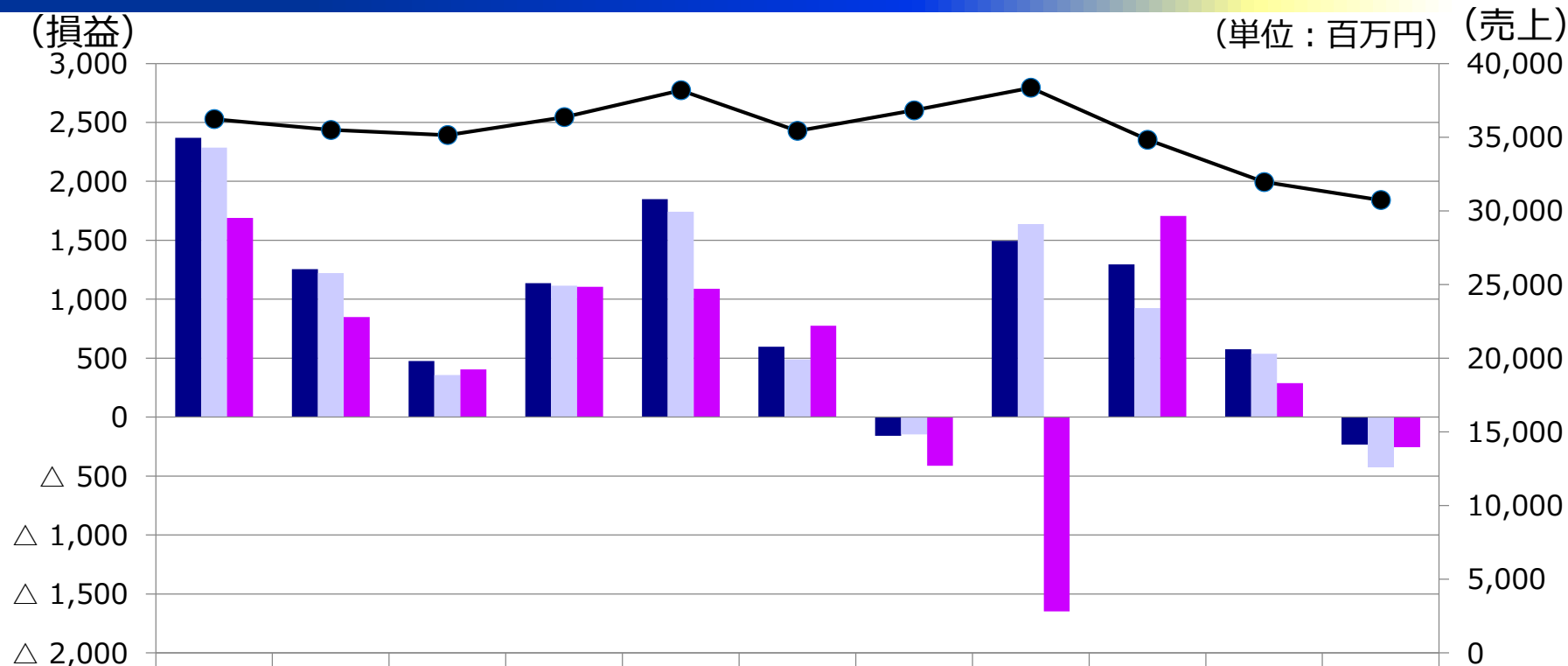
(単位：百万円)

	2018年度 第2四半期 (利益率)		2019年度 第2四半期 (利益率)		前期比増減	
	売上高	利益率	売上高	利益率	増減額	増減率
売上高	72,250	—	62,680	—	△9,570	△13.2%
営業利益	438	(0.6%)	341	(0.5%)	△96	△22.1%
経常利益	343	(0.5%)	110	(0.2%)	△232	△67.7%
当期純利益	363	(0.5%)	33	(0.1%)	△329	△90.7%
EPS (円)	14.02		1.31			

《全体感》

- 売上：国内外の自動車販売の減少及びアルミ地金市況の下落等により減収
また、北米における会計基準変更影響により約9億円減
- 営業利益、経常利益：自動車販売量の減少等により減益
- 当期純利益：前年度は投資有価証券売却分の特別利益を計上
- EPS：当期純利益の減少により、EPSは1.31円/株

連結決算概要（四半期推移）



	16年度 4Q	17年度 1Q	17年度 2Q	17年度 3Q	17年度 4Q	18年度 1Q	18年度 ※ 2Q	18年度 ※ 3Q	18年度 4Q	19年度 1Q	19年度 2Q
■ 営業損益	2,370	1,255	477	1,136	1,850	596	△ 158	1,494	1,296	576	△ 235
■ 経常損益	2,286	1,222	356	1,115	1,743	490	△ 147	1,638	924	537	△ 427
■ 当期純損益	1,690	850	405	1,105	1,090	776	△ 413	△ 1,648	1,706	289	△ 256
● 売上高	36,228	35,494	35,136	36,359	38,178	35,429	36,821	38,351	34,827	31,953	30,727

※ 18年度2Qは一時的な減価償却増（645）、3Qは米国工場の減損（3,015）計上

ダイカスト事業

(単位：百万円)

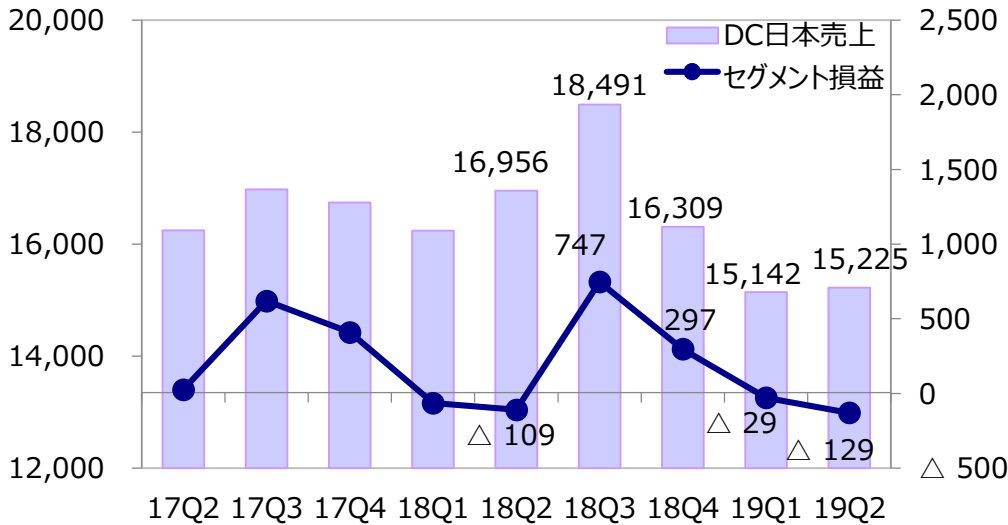
		2018年度 第2四半期 (利益率)		2019年度 第2四半期 (利益率)		前期比増減	
日本	売上高	33,198	—	30,367	—	△2,830	△8.5%
	セグメント損益	△173	—	△158	—	14	—
北米	売上高	20,514	—	16,982	—	△3,531	△17.2%
	セグメント損益	△198	—	478	(2.8%)	676	—
アジア	売上高	15,143	—	11,745	—	△3,398	△22.4%
	セグメント損益	748	(4.9%)	△320	—	△1,068	—

- ✓ ダイカストセグメントの海外売上比率
2018年度2Q：51.8% ⇒ 2019年度2Q：48.6%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



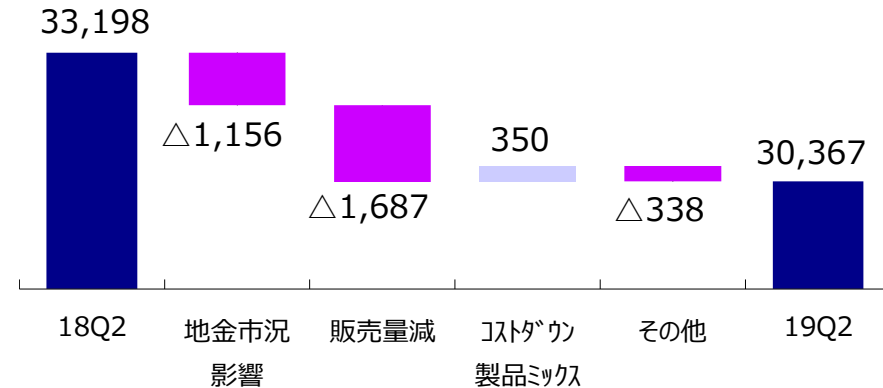
売上：28.3億円減（前期比8.5%減）

- 取引先の生産調整、自動車販売減の影響等により販売量が減少
- アルミ地金市況の変動影響等により減収

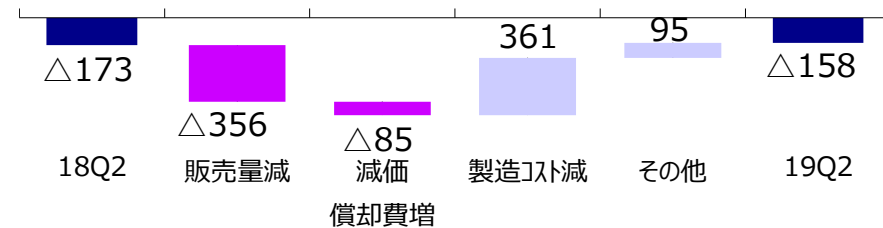
セグメント損益：0.1億円増（前期比増）

- 販売量減少の中で、製造コストの削減、値引き圧縮等に努め前期並みの損益水準（損失）

売上高増減要因（単位：百万円）

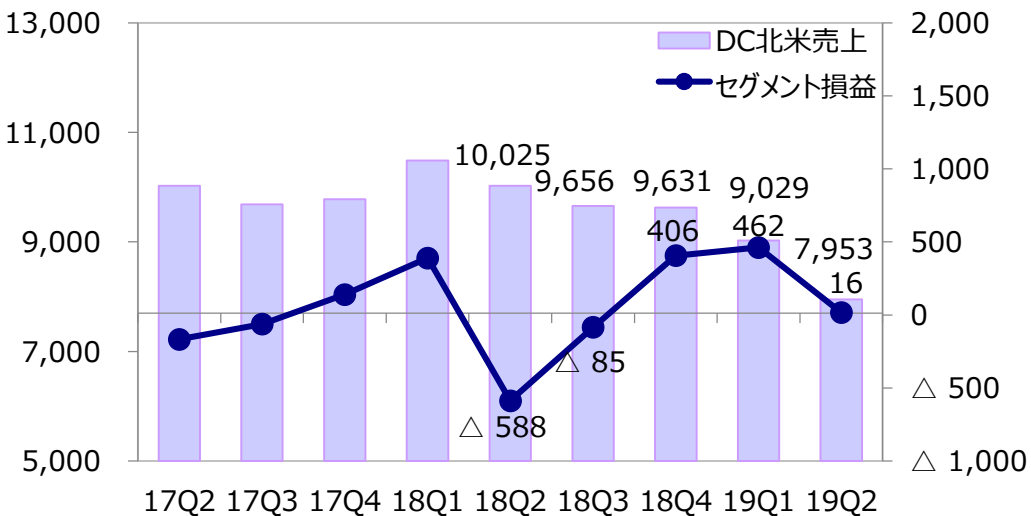


セグメント損益増減要因（単位：百万円）



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上：35.3億円減（前期比17.2%減）

- 米国工場の小型トラック向け受注やメキシコでの新規部品量産本格化あるが、主要顧客の自動車メーカーの販売低迷の影響を受け減収

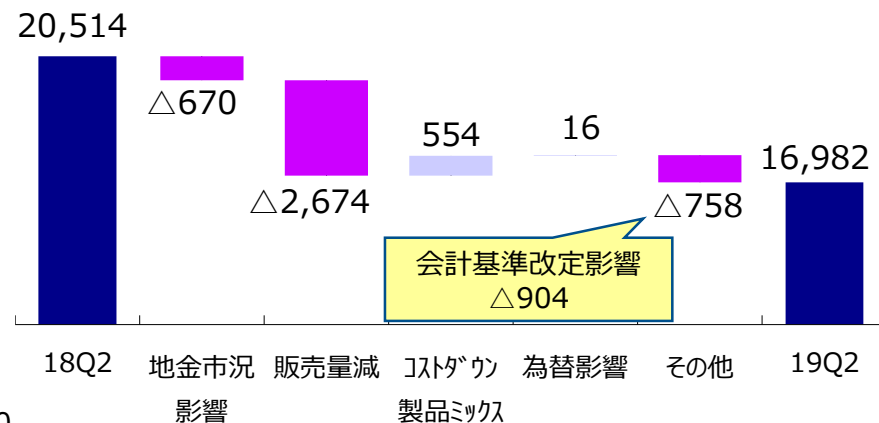
セグメント損益：6.7億円増（前期比増）

- 販売減となるが、生産性の改善と減価償却費の減少（前年度の減損及び一時的な償却費増の影響）等により増益

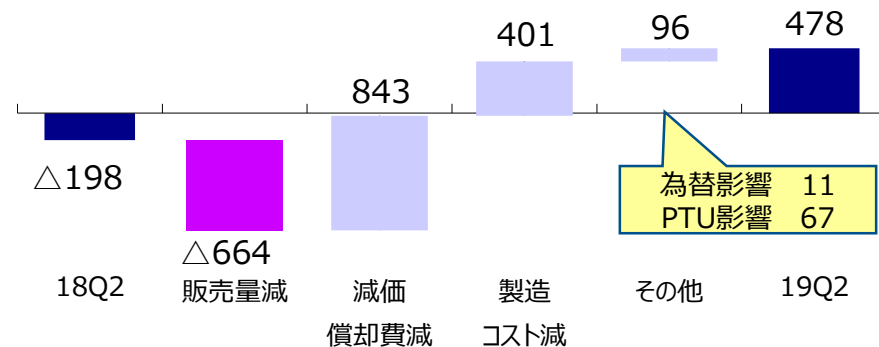
決算期：アメリカ3月期、メキシコ12月期

レート（18Q2⇒19Q2）アメリカ 110.07⇒109.04 メキシコ 109.17⇒110.15

売上高増減要因（単位：百万円）

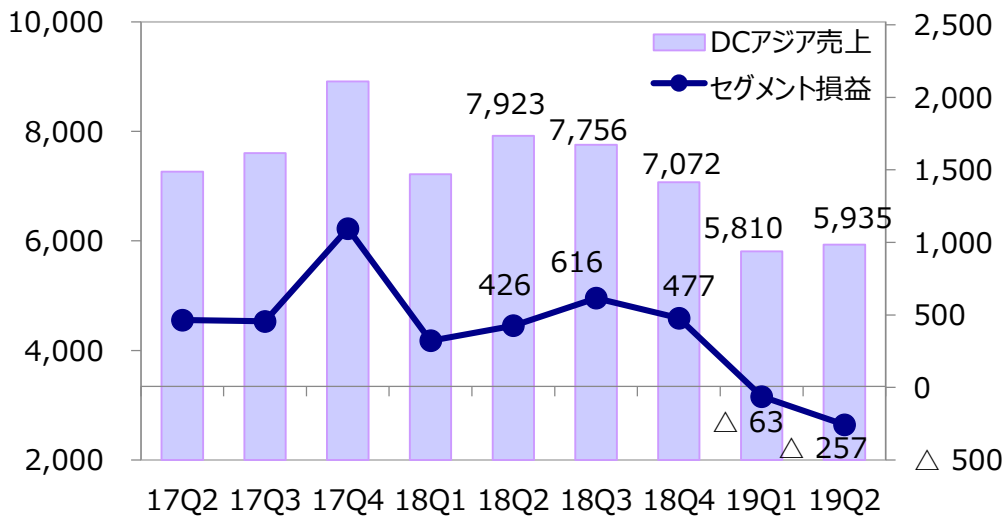


セグメント損益増減要因（単位：百万円）



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上：33.9億円減（前期比22.4%減）

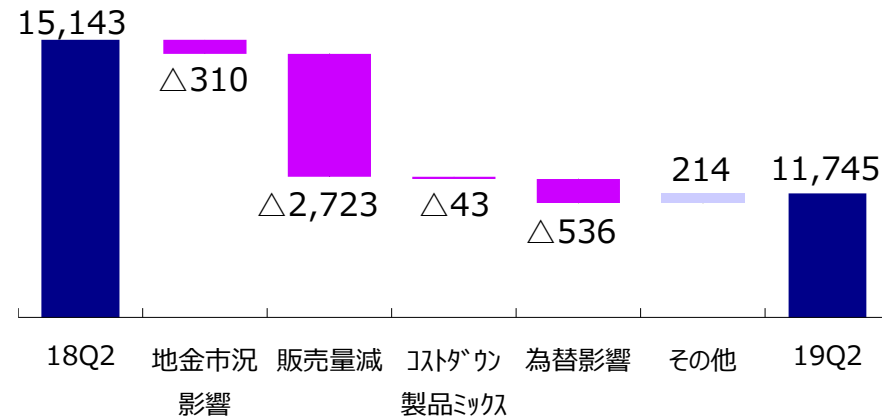
- 中国市場では、ローカルOEMの減速による販売量の落ち込みと為替等により減収
- インドも自動車販売減により販売量減少

セグメント損益：10.6億円減（前期比減）

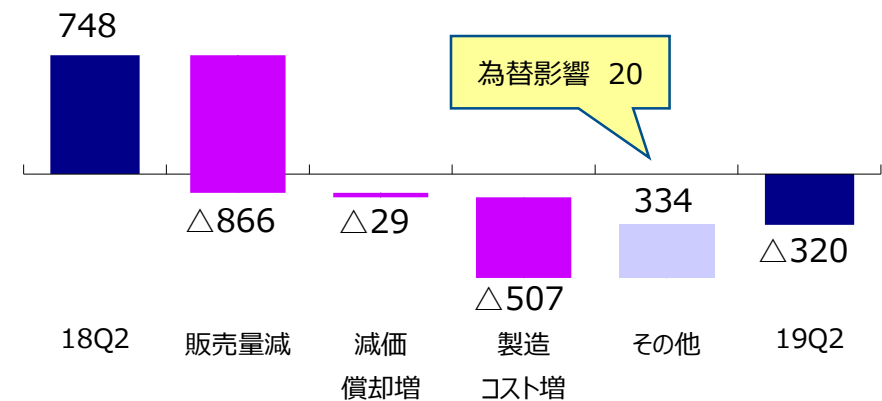
- 急激な販売量減少とともに、数量減にあわせたコスト削減に至らず損失計上

決算期：中国12月期、インド3月期
 レート（18Q2⇒19Q2） 人民元 17.05⇒16.23 インドルピー 1.61⇒1.56

売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2018年度 第2四半期 (利益率)		2019年度 第2四半期 (利益率)		前期比増減	
アルミニウム 事業	売上高	2,290	—	2,067	—	△222	△9.7%
	セグメント損益	43	(1.9%)	107	(5.2%)	64	147.2%
完成品事業	売上高	1,104	—	1,517	—	413	37.4%
	セグメント損益	70	(6.3%)	113	(7.5%)	43	62.2%

アルミニウム事業

- ▶ 売上：アルミ地金市況の変動等により販売単価が下がり減収
- ▶ セグメント損益：原材料の調達価格下落等により増益

完成品事業

- ▶ 売上：クリーンルーム物件やデータセンター向け物件の受注増により増収
- ▶ セグメント損益：売上の増加により増益

連結キャッシュ・フロー

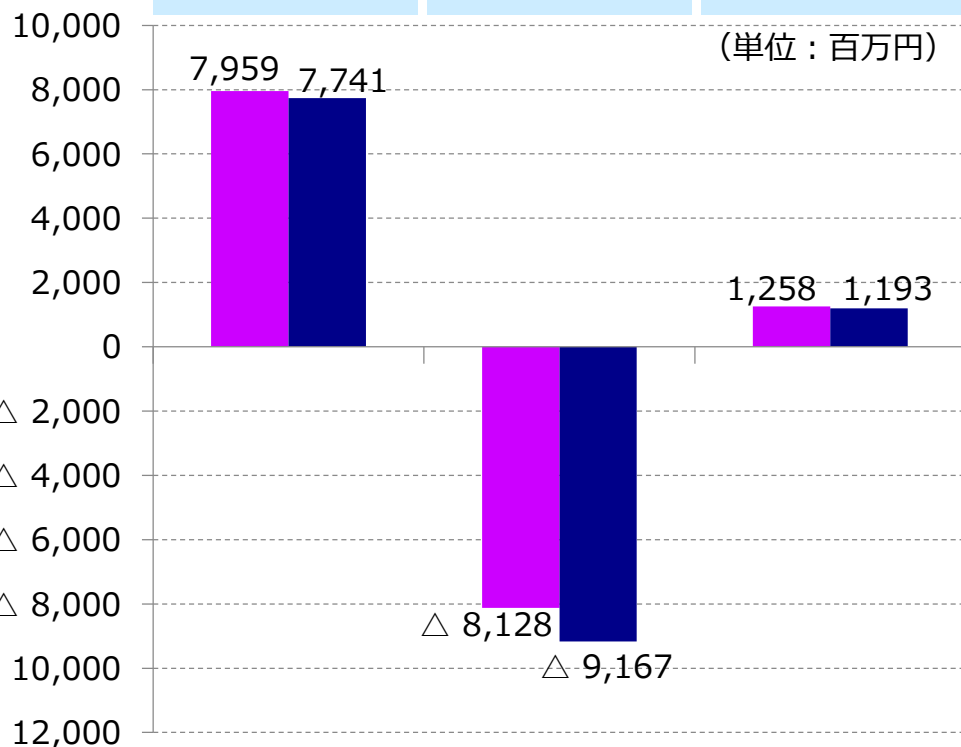
■ 2018年度2Q
■ 2019年度2Q

営業活動による
キャッシュフロー

投資活動による
キャッシュフロー

財務活動による
キャッシュフロー

(単位：百万円)



➤ 営業CF (内訳)

税金等調整前純利益	1億
減価償却費	72億
売上債権の減少 (+)	29億
仕入債務の減少 (-)	△21億

➤ 投資CF

北米・アジアの設備投資が増加

➤ 財務CF

長短借入金の増加
(19/3末 307億 → 19/9末 322億)

- 2019年度 第2四半期決算概況
- 2019年度 通期業績予想
- 1921中期経営計画の進捗状況

2019年度 業績予想

(単位：百万円)

	2018年度 実績		2019年度 期初計画(5/15)		2019年度 修正計画(10/17)		対期初計画増減	
売上高	145,428	—	134,000	—	123,400	—	△10,600	△7.9%
営業利益	3,228	(2.2%)	2,700	(2.0%)	900	(0.7%)	△1,800	△66.7%
経常利益	2,905	(1.9%)	2,500	(1.8%)	700	(0.5%)	△1,800	△72.0%
当期純利益	421	(0.2%)	1,700	(1.2%)	200	(0.1%)	△1,500	△88.2%
EPS	16.26		65.60		7.81		—	
配当金 (円)	22		22		18		—	

期初計画の前提レート (5/15) : USD 107.0円 人民元 16.0円 ルピー 1.5円

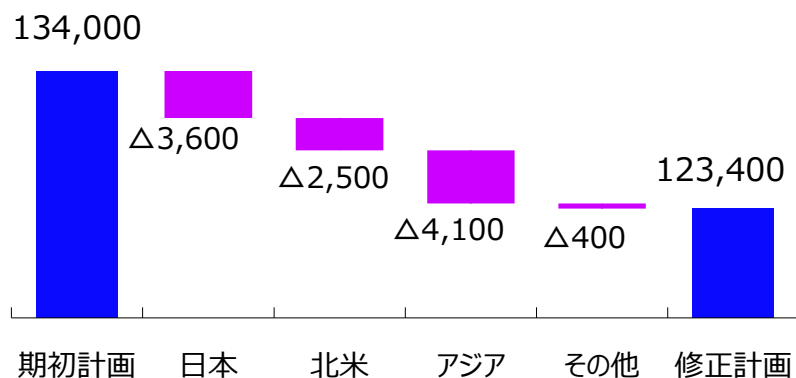
修正計画の前提レート (10/17) : USD 107.0円 人民元 16.0円 ルピー 1.5円

2019年度ダイカスト事業 業績予想

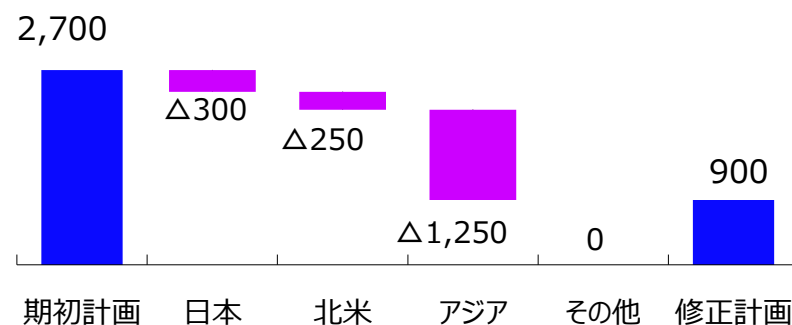
(単位：百万円)

		2019年度 上期		2019年度 下期		2019年度 通期		
		上期実績	期初計画対比	修正計画	期初計画対比	修正計画	期初計画対比	
日本	売上高	30,367	△1,133	30,630	△2,470	61,000	△3,600	△5.6%
	セグメント損益	△158	142	60	△440	△100	△300	-
北米	売上高	16,982	△1,018	14,520	△1,480	31,500	△2,500	△7.4%
	セグメント損益	478	△322	270	70	750	△250	-
アジア	売上高	11,745	△1,255	12,660	△2,840	24,400	△4,100	△14.4%
	セグメント損益	△320	△420	270	△830	△50	△1,250	-

売上高 対期初計画増減 (単位：百万円)

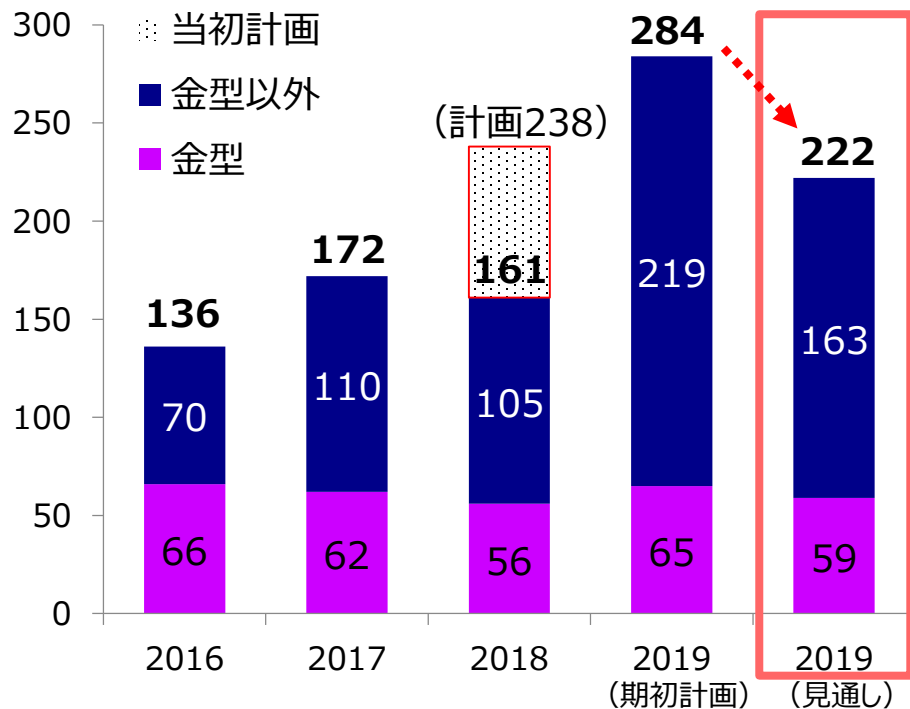


セグメント損益 対期初計画増減 (単位：百万円)

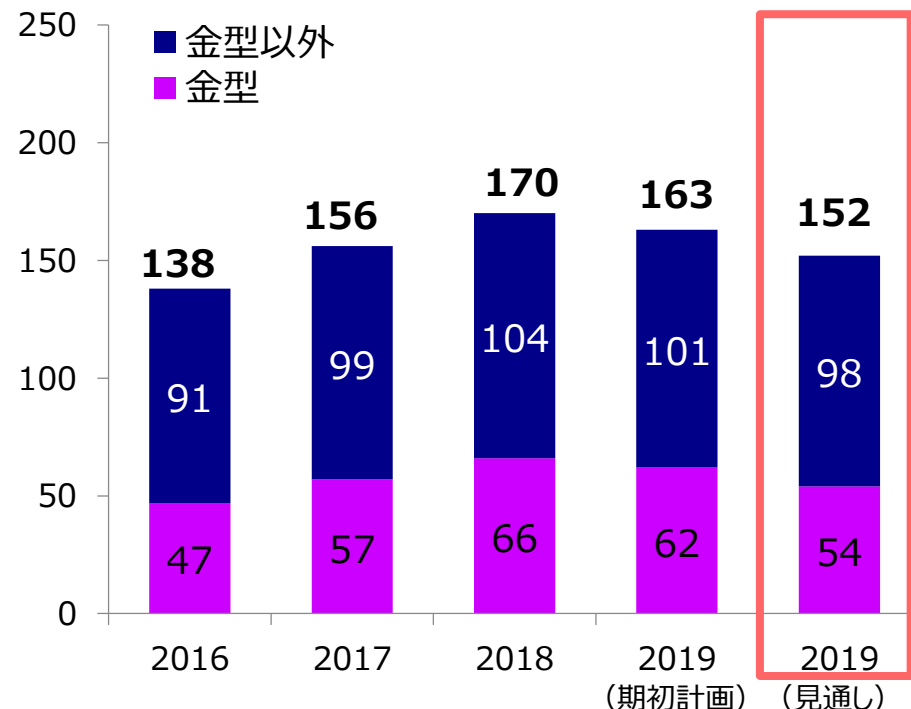


設備投資・減価償却の見通し

設備投資額の推移 (単位：億円)



減価償却費の推移 (単位：億円)



2019年度の設備投資計画見直し

- 内容：顧客都合による投資時期の期ずれ等により、主に中国の設備投資計画を一部見直し
- 設備投資金額：合計222億円（一般設備投資 163億円、金型投資 59億円）

- 2019年度 第2四半期決算概況
- 2019年度 通期業績予想
- 1921中期経営計画の進捗状況

1921 中期経営計画

アーレスティ10年ビジョン

信頼を究めよう 2025

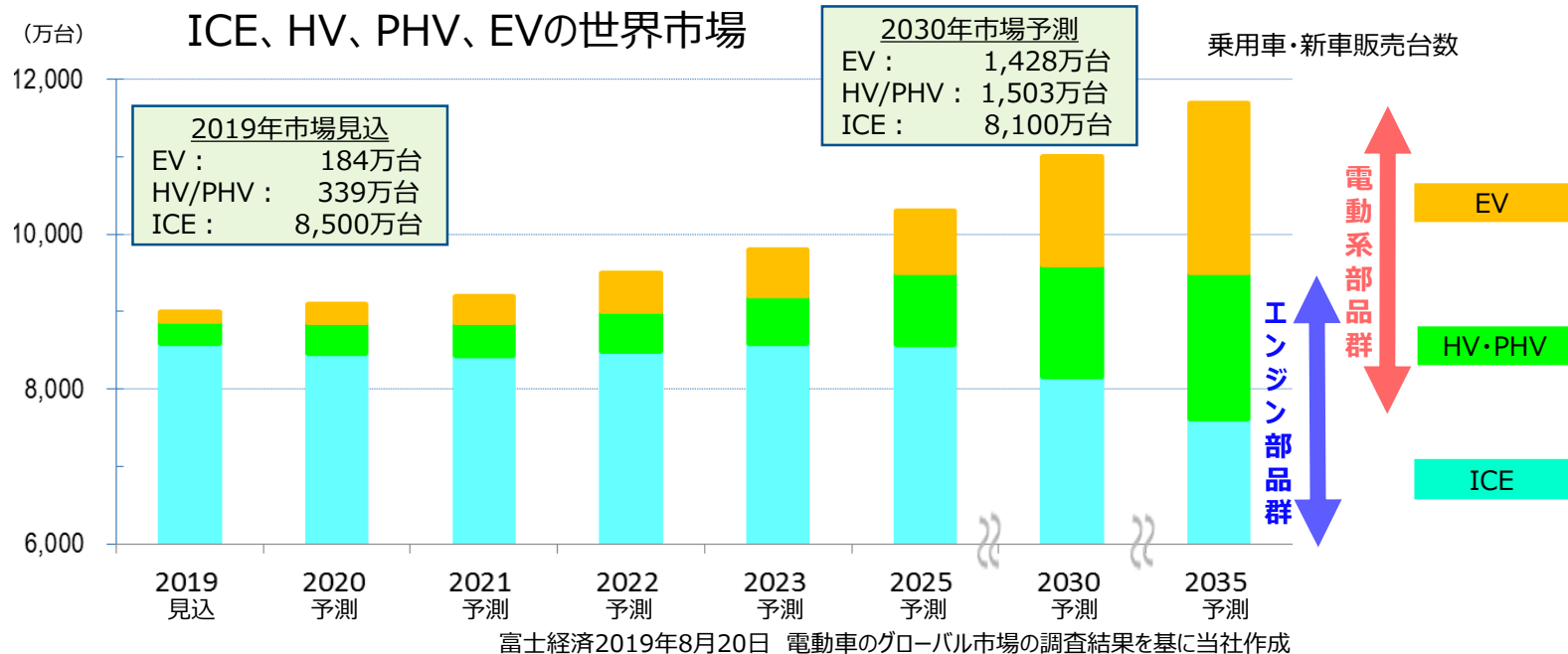
ありたい
姿

- お客様からの信頼No1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高2000億円 + α

1921中期経営計画

- 将来の自動車市場を見据えた事業戦略
- 生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ
- 企業の成長を支えるひとづくり

将来の自動車市場を見据えた事業戦略 自動車市場の見通し



自動車EV化の課題

- ・公共充電器などの社会インフラ
- ・電気自動車の航続距離
- ・バッテリーの価格
- ・バッテリーに使う天然資源の確保
- ・バッテリーのリサイクル

充電器の普及台数

	日本	中国	米国	ドイツ	イギリス	フランス	オランダ	スウェーデン	ノルウェー
公共充電器数	3.0万	21.3万	4.5万	2.4万	1.4万	1.6万	3.3万	0.4万	1万
充電器1台あたりEV/PHV台数	7	6	16	5	10	7	4	12	18

IEA Global EV Outlook 2018 より

求められるニーズを捉え実現して対応

EV普及によるダイカスト製品の変化

	B: エンジン	M: トランスミッション	E: 電動化部品	S: 構造部品
ICE (内燃機関)	シリンダーブロック ロアブロック オイルパン チェーンカバー	ミッションケース コンバーターケース サイドカバー		ショックタワー ピラー ドアフレーム サブフレーム

	B: エンジン	M: トランスミッション	E: 電動化部品	S: 構造部品
HEV / PHEV	シリンダーブロック ロアブロック オイルパン チェーンカバー	ミッションケース コンバーターケース サイドカバー	モーターケース インバーターケース コンバーターケース バッテリーケース	ショックタワー ピラー ドアフレーム サブフレーム

	B: エンジン	M: トランスミッション	E: 電動化部品	S: 構造部品
EV		減速機ケース	モーターケース インバーターケース コンバーターケース バッテリーケース	ショックタワー ピラー ドアフレーム サブフレーム



【求められるニーズ】

	B: エンジン	M: トランスミッション	E: 電動化部品	S: 構造部品
グローバル供給能力 (ワンプリント マルチロケーション)	○	○	○	○
軽量化・薄肉化		○	△	○
コンタミ	△	△	○	
強度・耐力・伸び			△ (バッテリーケース)	○

アーレスティの取組

- ・同一製品を同一品質で各国に供給 (6か国対応)
- ・鉄からアルミへ 重量1/2
- ・クリーンブース組立
・気密性の保証
- ・車体用合金の開発、活用

将来の事業環境を見据えた部品群の受注

■ 受注増加に対応した工場の増築を実施



アーレスティプリテック 【第4加工工場】
2019年9月竣工
新規の加工設備を搬入し稼働準備中
2020年3月量産開始予定
面積：4,575㎡

生産する5製品のうち3製品が電動系部品



アーレスティ山形 【第1加工棟】
2019年1月竣工
2019年10月量産開始
面積：1,250㎡

【溶解棟】

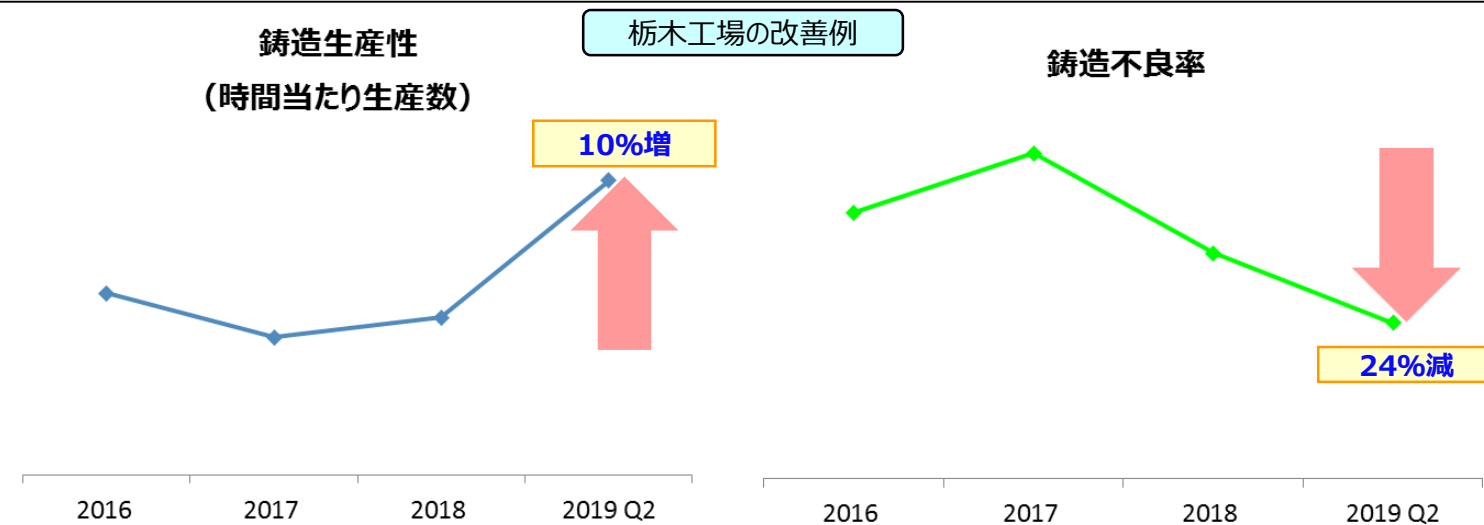
2020年4月稼働予定
面積：650㎡

生産する4製品のうち3製品が電動系部品

収益力アップに向けた生産性改善活動

グループ全体で横串の生産性改善を実施

- 自動化・省人化、からくりアイテムの発掘と情報共有
- OPCCによる生産性向上、不良低減活動の更なる推進



作業工程のムダ取り等による時間当たり生産数の増加
ロス時間の課題把握による作業環境の改善
機械一時停止削減による生産数の増加
検査工程の見直しによる省人化

栃木工場の
19年度上期成果

生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ 顧客から高い評価を受けるものづくり

- JATCO Mexico, S.A. de C.V.よりベスト・パフォーマンス賞を2年連続受賞
- Maruti Suzuki India LimitedよりOverall Performanceを3年連続受賞



ベスト・パフォーマンス賞（アーレスティメヒカーナ）



Overall Performance（アーレスティンディア）

アイシン・エイ・ダブリュ株式会社と新規取引開始

オートマチックトランスミッション世界シェア1位のアイシン・エイ・ダブリュ株式会社と新規取引を開始。受注製品はトヨタRAV4に搭載され、すでに月産2万台以上を量産しています。



トヨタ自動車 新型RAV4

ESG/SDGsの取り組み

全社方針

E：環境にやさしい企業の実現

- ✓ アルミダイカスト製品を通じた車の軽量化への貢献
- ✓ 製造工程での環境負荷削減
- ✓ エネルギー効率の良い設備への変更（溶解炉など）等

全社方針

S：成長と働きがいを感じられる風土づくり

- ✓ 安全で働きやすい職場の確保
- ✓ 働き方の多様化への対応
- ✓ 高い品質と生産性の確保
- ✓ ものづくりを支えるひとづくり
- ✓ 地域社会と共に 等

離型剤の少量塗布技術による騒音減の改善
（写真は少量塗布用のスプレーカセット）



G：高い透明性を保ち迅速な意思決定ができる経営体制の確立

- ✓ コーポレートガバナンスの充実
 - ・指名報酬委員会の設置
 - ・業績連動型株式報酬
- ✓ リスク管理の徹底
- ✓ コンプライアンスの徹底
- ✓ 株主・投資家との建設的な対話等





Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】
株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664
E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com
URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。